

私の主張

「いしゃ先生」感動の物語

■ 戸沢村 高橋茂 64歳

西川町大井沢でへき地診療に一生をささげた志田周子さんがモデルの映画「いしゃ先生」のロケを見る機会があった。箱ぞりに急患の人を乗せ、村人が峠越えをするシーンだった。雪の中で、監督の「本番スタート」の声が山に響きわたっていた。

吹雪のシーンではその効果を出すスタッフ、雪に足をとられながら懸命にそりを引く張る村人、緊迫した表情の「いしゃ先生」と、外から見ても雪深い地域の

医療が、当時いかに大変だったかを思い起こし、思わず涙が出てしまった。それにしても、雪の中に何時間も立ちながら演技を繰り返す地元エキストラの

方たちが、粘り強い県民魂を見せてくれた。途中から私と友人も駆り出され出演する羽目になったが、めったにできない貴重な体験をさせていただいた。映像に出てくるかは分からないが、この思い出は一生の宝である。特に印象的だったのは、スタッフや俳

優さんの活躍はもちろん、それを支えて応援する町長さんをはじめ、地元の方の厚いもてなしだった。

この映画は単に町の地域おこしの枠を超え、「地域医療はどうあるべきか」を現代に問いかける映画だと思ふ。このたびのロケが終了し、秋ごろに公開されると聞いた。地元の熱意と感動が伝わる素晴らしい映画だと思ふ。早く見たいと今から楽しみにしている。